

東区まちづくりプラン 2022年度（令和4年度）実績一覧

1 安全・安心で、元気あふれるまちづくり

評価一覧（全33取組） ◎ 18件（55%）：進捗率100%以上  
 ○ 11件（33%）：進捗率50%以上 100%未満  
 △ 4件（12%）：進捗率50%未満

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指標						実施時期	評価	取組内容
					2021年度実績	2022年度（令和4年度）			2025年度	2030年度			
					目標値	実績	進捗率						
(1)土砂災害等に対する備え	平成30年7月豪雨災害の教訓を踏まえ、「自分の命は自分で守る」という住民の防災意識を向上させ、防災まちづくりの更なる充実を図るため、防災マップの作成支援や防災訓練を行う。		○	(ア)防災マップを作り、災害に備えよう！	防災マップを作成した町内会数 目標数:57町内会、3月末実績:46町内会						通年	○	防災マップの作成支援を行い、戸坂学区の9町内会は作成・配布を行った。また、早稲田学区の5町内会は、地域独自で作成している防災マップを活用することとし、危険箇所の少ない町内会等では学区版マップを活用することとした。
				149/196町内会	178/196町内会	167/196町内会	81%	196/196町内会(2023年)	更新				
(2)避難行動要支援者への支援	要支援者名簿の提供先が多岐にわたるため、地域団体ごとの役割分担を明確にし、相互に連携して取り組めるよう支援を行う。		○	(イ)「自助・共助・公助」のバランスが取れた防災訓練を実施しよう！	防災訓練を実施した地区数 3地区/年 4地区/年 4地区/年 100% 4地区/年 4地区/年						通年	◎	全エリアで1地区以上の防災訓練を行った。東区防災訓練は、上温品学区で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により延期となり、年度内の実施はできなかった。
				16人/年	20人以上/年	21人/年	105%	20人以上/年	20人以上/年				
(3)地区社協や町内会などの地域コミュニティの活性化	町内会役員の高齢化や担い手不足、町内会加入率の低下などの課題解決を図り、地域コミュニティの活性化に取り組む。		○	(ア)次世代の担い手を育成するための講演会に参加しよう！	講演会の参加者数 385人(YouTubeの視聴回数含む) 500人 445人(YouTubeの視聴回数含む) 89% 500人 500人						12月	○	12月3日に開催した東区コミュニティ交流協議会東区民大会において、地域コミュニティの活性化につながる活動発表を行った。また、参加できなかった人のために、その様子を広島市公式YouTubeチャンネルでも視聴できるようにした。
				4件/年	2件以上/年	3件/年	150%	2件以上/年	2件以上/年				
(4)犯罪の起こりにくい安全なまちづくり	安全なまちづくりを進めるため、地域における危険な場所等を確認した上で、犯罪の抑止力になる防犯カメラや防犯灯の設置を支援する。		○	(ア)地域の安全は地域で守ろう！	防犯カメラ設置補助制度を活用した設置台数 6台/年 5台以上/年 1台/年 20% 5台以上/年 5台以上/年						4月～11月	△	当初、福田地区の1台しか申請がなかったため、追加募集で補助制度の周知と申請勧奨を行ったが、新たな申請はなかった。
				26か所/年	20か所/年	24か所/年	120%	20か所/年	20か所/年				
(5)交通事故のない安全なまちづくり	交通事故の件数は年々減少傾向にあるが、「ながらスマホ」などの交通マナーの低下（特に若年層）などが指摘されており、交通安全に対する意識の向上を図る。		○	交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させよう！	交通安全街頭キャンペーン・自転車交通マナー教室の開催数 3回/年 6回以上/年 5回/年 83% 6回以上/年 6回以上/年						通年	○	交通安全運動街頭キャンペーンについては、春（4月）、夏（7月）、秋（9月）、年末（12月）に開催した。また、自転車交通マナー教室については、4月に広島桜が丘高等学校で開催した。

東区まちづくりプラン 2022年度（令和4年度）実績一覧

2 みんなで支え合うまちづくり

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指 標					実施時期	評価	取組内容	
					2021年度 実績	2022年度(令和4年度)			2025年度				2030年度
						目標値	実績	進捗率					
(1)認知症の人やその疑いがある人の増加に伴う対応	認知症の人やその疑いがある人の増加が見込まれるため、認知症の人とその家族を地域で支える仕組みを作る。		○	(ア)認知症サポーターになろう！	認知症サポーター養成講座の実施校数					通年	○	5、6月及び2月に小中学校長会で講座の開催を依頼するとともに、8月に各地域包括支援センターに積極的な実施について働きかけを行い、17校で講座を開催した。	
				12校 小学校5/12、 中学校5/7、 高等学校0/5、大学2/2	26校 小学校12/12 中学校7/7 高等学校5/5、大学2/2	17校 小学校7/12 中学校7/7 高等学校1/5、大学2/2	65%	26校 小学校12/12 中学校7/7 高等学校5/5、大学2/2	26校 小学校12/12 中学校7/7 高等学校5/5、大学2/2				
(2)高齢者の健康づくり、介護予防の推進	介護を要する高齢者の増加が見込まれるため、地域団体等と協力して介護予防拠点を増やし、自ら健康づくりに取り組む高齢者を増やす。		○	(イ)認知症支えあいカフェを広めよう！	認知症支えあいカフェの設置地区数					通年	◎	新規立ち上げ支援を行っていた「いっぽカフェ」（牛田）が7月に、「やすらぎカフェ」（中山）が9月に開店した。	
				10/13地区	11/13地区	12/13地区	133%	13/13地区 (2024年)	13/13地区				
(3)地域ぐるみの子育て支援	子育て中の親子が利用しやすいよう、地域団体と連携し、子育てオープンスペースの実施回数や実施箇所数を増やすとともに、多世代交流など多様な実施内容を取り入れ、参加者数を増やす。		○	いきいき百歳体操に取り組もう！	拠点数と参加者数					通年	○	新規拠点として牛田地区、中山地区、矢賀地区で1か所、尾長地区と戸坂地区で2か所が開設し、福田地区で1か所の閉鎖があった。	
				2,337人 (99拠点)	2,428人 (121拠点)	2,301人 (105拠点)	83%	3,100人 (155拠点)	次期プランに併せて提示				
(4)地域共生社会の実現に向けた取組	少子化・高齢化が進み、現在の制度では対応できないケースが増えてくることが予測されるため、地域住民や地域の多様な団体が連携し、世代や制度・分野ごとの「縦割り」を超えてつながること、子ども、高齢者、障害者など、全ての人が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会を実現する。		○	(ア)「東区地域支えあいリスト」の掲載件数を増やそう！	地域支えあいリストの掲載件数					9月	◎	9月にリストを更新し、コロナ禍でも活動しやすいグラウンドゴルフやウォーキング等の屋外活動59件を新規項目として掲載した。	
				345件	352件	404件	193%	374件	2025年度に作成				
(4)地域共生社会の実現に向けた取組			○	(イ)医師会や歯科医師会等の医療介護関係者と地域団体が連携した活動を増やそう！	医療介護関係者と地域団体が連携した地区数					通年	◎	認知症支えあいカフェの新規立ち上げ支援として、牛田、牛田新町、中山、矢賀地区で、医療介護関係者による認知症サポーター養成講座を開催した。高齢者の通いの場に薬剤師又は歯科衛生士を派遣して健康教育を行った。	
				9/13地区	13/13地区	13/13地区	100%	13/13地区	13/13地区				
(4)地域共生社会の実現に向けた取組			○	(ウ)地域共生社会実現のため、多世代交流の場を立ち上げよう！	多世代の交流の場の開催地区数					通年	◎	新たに牛田新町地区で、10月の「いきいき健康フェスティバル」に大学生が参加し、乳幼児・小学生やその保護者、高齢者と交流した。また、子育てオープンスペース「わくわく・しんまち」に大学生が参加し、乳幼児やその保護者、ボランティアと交流した。	
				6/13地区	8/13地区	8/13地区	100%	13/13地区	13/13地区				
(4)地域共生社会の実現に向けた取組			○	(エ)要支援者を地域で支えよう！ 【再掲】1-(2)	対象者のうち、危険区域に居住し、かつ、家族等による支援を受けられない方について、個別避難計画を作成した人数					通年	◎	個人情報の外部提供に同意された避難行動要支援者(1,124人)のうち、避難支援者がいない者(21人)の個別避難計画の作成を支援した。	
				16人/年	20人以上/年	21人/年	105%	20人以上/年	20人以上/年				
(5)地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいため、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(ア)元気じゃ健診を受けよう！	特定健康診査受診率					通年	△	若い世代向けの啓発チラシの配布や、医療機関等への健診の積極的実施及びポスター・ステッカーの掲示を依頼した。また、区役所のモニターや市民と市政等により、受診勧奨メッセージを発信するとともに、2か所の医療機関で受診勧奨動画を放映するなど、受診率向上に向けて啓発活動を展開した。	
				24.8% (確定値)	45%	21.5% (5月末暫定値)	48%	50% (2023年度)	85%				
				(イ)野菜摂取量を増やすため、地元の野菜を食べよう！	地元野菜を活用したレシピの数					通年	◎	「朝食で手軽に野菜が食べられる」をテーマにレシピを作成した。作成したレシピは市の公式Twitter及びYouTubeに掲載し、東区役所の乳幼児健診会場で動画配信した。	
					2品/年	2品/年	2品/年	100%	2品/年				2品/年
(ウ)東区を歩いて、運動習慣を身につけよう！	①「健康ウォーキングのつどい」の60歳未満参加者割合					10月	◎	新たに「新牛田公園・牛田総合公園いきいき健康フェスティバル」を10月に開催し、フォレストウォークを実施した(24名参加し、60歳未満の参加は4名であった)。					
	— [中止]	15%以上	16.6%	111%	20%以上				20%以上				
(ウ)東区を歩いて、運動習慣を身につけよう！	②週1回程度ウォーキング活動をする地区数					通年	◎	新たな活動の場の立ち上げに向けて、地域でのウォーキング活動の実態を把握した。					
	6/13地区	7/13地区	6/13地区	86%	13/13地区				13/13地区				

東区まちづくりプラン 2022年度（令和4年度）実績一覧

3 地域資源を生かした個性豊かなまちづくり

項目	課題と対(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指標				実施時期	評価	取組内容			
					2021年度実績	2022年度(令和4年度)						2025年度	2030年度	
					目標値	実績	進捗率							
(1)二葉の里歴史の散歩道などの活用	二葉の里歴史の散歩道の認知度をさらに上げていくために、外国人旅行者や幅広い世代に関心を持ってもらう取組を進める。		○	(ア)「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう！	年間参加者数	91人	847人	850人	100%	871人	911人	通年	◎	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、各広報ツールにより参加を呼びかけ、「ふたばの日」(参加者384人)、「いつでもガイド」(参加者409人)、「夏の夜、祈りと平和の夕べ」でのガイド(参加者57人)を実施した。
				(イ)「夏の夜、祈りと平和の夕べ」の来訪者を増やそう！	イベントの来訪者数	— 【中止】	2,100人	1,324人	63%	2,250人	2,500人	8月	○	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、各広報ツールにより参加を呼びかけ、1,324人が来訪した。
(2)都心の近くにある自然とのふれあいの促進	都心の近くにある自然に親しむことのできる場所や、ハイキングコースなどの認知度が十分でないことから、今後も広く住民や観光客に周知し、その活用を促す。		○	(ア)自然観察の楽しさを広めよう！	年間参加者数	26人	220人	152人	69%	250人	250人	通年	○	各広報ツールによりイベントの周知を図り、自然観覧会等を6回開催し、152人の参加があった。
				(イ)都心に近い「牛田山」の魅力を伝えよう！	牛田山ハイキング参加者数	151人	188人	132人	70%	200人	200人	11月	○	各広報ツールによりイベントの周知を図り、グループ登山イベントでは67人、いつでも登山ウィークでは65人の参加があった。
				(ウ)地域主催のハイキングイベントを増やそう！	ハイキングイベントの新規実施件数	1件/年	1件/年	1件/年	100%	1件/年 (2022年度)	累計3件	通年	◎	公民館等と連携してイベントの広報を行うとともに、大内越山を対象とした新たなハイキングイベントを実施した。
(3)地域資源を生かした住民主体の活動の推進	東区の魅力や活力をさらに高めていくために、地域資源を生かしたまちづくりを進める団体等に積極的に制度の情報提供を行い、活動する団体を増やす。		○	「魅力と活力向上推進事業補助金」	新規申請件数	2件/年	4件以上/年	1件/年	25%	4件以上/年	4件以上/年	通年	△	「市民と市政」での広報を行うなど制度の周知をした結果、2次募集でかかし祭り実行委員会から1件の申請があった。
(4)大学との地域連携によるまちづくり	地域の大学と包括的な連携のもと、それぞれの持つ人材、知識、情報などの資源を活用し、地域の発展と人材の育成を図る。		○	(ア)健康づくりに取り組む若者を育てよう！	健康展の出展回数	1回/年	2回/年	2回/年	100%	2回/年	2回/年	10月~11月	◎	比治山大学の大学祭で、学生と協働作成した健康づくりに関する動画を来所者160名に放映した。広島女学院大学の大学祭では、大学・行政・企業が連携した健康展を開催し、250名の参加があった。
				(イ)命の大切さや思いやりの心を育もう！	大学生による常設オープンスペースでの、親子で遊べるイベント開催件数	1回/年	1回/年	1回/年	100%	1回/年	1回/年	11月	◎	比治山大学の学生によるイベントを11月30日に開催した。
(5)スポーツにふれあう機会の充実	東区の魅力資源であるイズミメイプルレッズの応援や、誰もが気軽に取り組むことができるニュースポーツの体験などを通じて、全ての住民がスポーツにふれあう機会を充実させる。		○	(ア)地元のトップアスリートを応援しよう！	東区応援団の参加者数	— 【中止】	120人	40人	33%	150人	200人	2月	△	2月11日の試合で東区応援隊による試合応援を実施し、40人が参加した。
				(イ)高齢者や障害者等、全ての区民が気軽にスポーツに参加する機会を広げよう！	ニュースポーツを体験するイベントの年間実施回数	1回	3回	3回	100%	3回	3回	10月~2月	◎	ニュースポーツを体験するイベントとして、エンジョイ！スポーツ祭(10月10日)、ニュースポーツ交流会(12月19日)、ひがしくスポーツセンターまつり(2月26日)を実施した。
(6)都心に近い農業地域の活力向上	「木曜であい市」の来場者数が減少傾向にあるため、「木曜であい市」の認知度を高め、来場者数を増やす。		○	「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう！	年間来場者数	365人	4,100人	3,316人	81%	4,250人	4,500人	通年	○	新型コロナウイルスの影響により中止していた木曜であい市を4月7日から再開し、計46回開催した。また、通常の開催に加えて安全・安心フェスタ(2月18日)、スケート感謝祭(3月19日)に出店した。
(7)地域の魅力の継承	子ども達が地域の歴史や自然を学習する機会が少ないため、東区の魅力である地域資源を継続して伝えていく。		○	子どもたちに地域の魅力を伝えよう！	3者が学習支援を実施する学校等の数	5校/年	5校/年	6校/年	120%	7校/年	9校/年	6月~12月	◎	学習支援する学校を確保するため、早期に学校側に取組の情報提供を行い、ふれあいもてなし市協議会が、矢賀うり・ちしゃ植付指導を3校で実施し、二葉の里ボランティアガイドの会が、七社寺でのガイド、校内授業等を3校で実施した。

東区まちづくりプラン 2022年度（令和4年度）実績一覧

4 おもてなしの心あふれるまちづくり

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指 標				実施時期	評価	取組内容		
					2021年度実績	2022年度（令和4年度）		2025年度				2030年度	
					目標値	実績	進捗率						
(1)陸の玄関口であるJR広島駅新幹線口周辺地区（エキキタ）のにぎわいづくり	「エキキターレ」を活用するなど、季節ごとに実施されるイベントの内容の充実を図りながら、「エキキタ」の認知度を高めていく。		○	(ア)「エキキターレ」をエキキタのにぎわい広場として盛り上げよう！	イベント等でのエキキターレの利用日数				通年	○	あんばんパーク（11日）、広島オクトーバーフェスト（11日）など、合計で49日の利用があり、イベントの広報支援を通して、利用の増加につなげた。		
				17日/年	55日/年	49日/年	89%	100日/年				150日/年	
					○	(イ)「エキキタ・ドリミネーション」を、エキキタのインスタスポットに育てよう！	参加企業・店舗数				12月～1月	◎	レンタル用装飾グッズを紹介して参加を呼びかけた結果、参加団体は昨年度から2件増加の28企業・店舗となった。
						26企業・店舗	27企業・店舗	28企業・店舗	104%	30企業・店舗			
					○	(ウ)「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう！ 【再掲】3-(1)-(ア)	年間参加者数				通年	◎	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、各広報ツールにより参加を呼びかけ、「ふたばの日」（参加者384人）、「いつでもガイド」（参加者409人）、「夏の夜、祈りと平和のタベ」でのガイド（参加者57人）を実施した。
91人	847人	850人	100%			871人	911人						
	○	(エ)「夏の夜、祈りと平和のタベ」の来訪者を増やそう 【再掲】3-(1)-(イ)	イベントの来訪者数				8月	○	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、各広報ツールにより参加を呼びかけ、1,324人が来訪した。				
		— 【中止】	2,100人	1,324人	63%	2,250人				2,500人			
	○	(オ)「魅力と活力向上推進事業補助金」 【再掲】3-(3)	新規申請件数				通年	△	「市民と市政」での広報を行うなど制度の周知をした結果、2次募集でかかし祭り実行委員会から1件の申請があった。				
		2件/年	4件以上/年	1件/年	25%	4件以上/年				4件以上/年			
(2)産直市などによる交流の場の創出	「木曜であい市」の来場者数が減少傾向にあるため、「木曜であい市」の認知度を高め、来場者数を増やす。		○	「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう！ 【再掲】3-(6)	年間来場者数				通年	○	新型コロナウイルスの影響により中止していた木曜であい市を4月7日から再開し、計46回開催した。また、通常の開催に加えて安全・安心フェスタ(2月18日)、スケート感謝祭(3月19日)に出店した。		
365人	4,100人	3,316人	81%	4,250人	4,500人								
(3)公共空間（公園等）を活用した花づくり	花づくりを行える公園等の公共用地で、まだ活用されていない場所が見受けられるため、支援制度の広報に力を入れ、活動を充実・強化する。		○	東区を花でいっぱいにしよう！	花づくり活動団体数 目標数：5団体、3月末実績：8団体				通年	◎	既存の花づくり団体の協力による区役所の花壇の植え替えの様子をFacebookで紹介した。また、花づくり講座で作成した寄せ植え作品を「出会い・ふれあいフェスティバル」で展示することによって本事業をPRし、花づくり団体は、計48団体となっている。		
47団体	45団体	48団体	160%	50団体	55団体								